

# 第3回第4期幸区区民会議

平成25年3月18日(月)

1

## 本日の予定

### 第3回幸区区民会議

前回の区民会議以降の、2つの専門部会での調査審議内容を報告  
報告を踏まえ、区民会議全体での審議  
今後のスケジュール

### 【参考】第2回幸区区民会議(平成24年11月12日(月))

内容: 2つの専門部会での調査審議内容の報告・全体での審議

**暮らしの安全部会** 当面は「防災」に関して、次の3つの検討項目  
について調査審議を進めていく。

- 1 自助の重要性を踏まえ、自助に関する検討
- 2 エリア別防災マップに関する検討
- 3 中学生と連携した防災訓練等の取組の検討

**みんなで見守りたい** 「地域の見守り体制づくり」に向け、次の3点に  
留意して調査審議を進めていく。

- 1 既存の見守り体制と、区民会議の提案のすみわけ
- 2 市民と行政の協働による検討
- 3 取組の方向性と現状の把握

2

# 暮らしの安全部会 調査審議 経過報告

- 1 これまでの調査審議の状況
- 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討
- 3 今後のスケジュール

3

## 1 これまでの調査審議の状況

### 第2回幸区区民会議（全体会）での報告内容

部会名：「暮らしの安全部会」

調査審議テーマ：防災（新規）、自転車マナー（継続）

当面、「防災」について調査審議を行う。

自助の重要性を踏まえ、自助に関する検討

エリア別防災マップに関する検討

中学生と連携した防災訓練等の取組の検討

} 調査審議テーマの  
方向性を決定

### 専門部会（第3回～第5回）での調査審議の内容

3つの調査審議テーマの方向性から、具体的な取組を検討

エリア別防災マップの作成に向けた検討を行うこととした。

幸消防署が実施している災害図上訓練（DIG）の視察

（仮称）マイ防災マップの作成に向けた検討・調整

日吉中学校と連携し、「（仮称）マイ防災マップ」を作成していく。

本日の報告内容

4

# 1 これまでの調査審議の状況

## 調査審議テーマの方向性

【3つの検討項目をつなげるストーリー（目的）：  
中学生を軸とした自助・地域防災力の向上】

自助に  
関する  
検討



自助の意識向上  
や実行のための  
取組  
どうしたら自助の  
取組を徹底できるか

エリア別  
防災  
マップの  
検討

区民参加によるエリア別  
防災マップの作成  
区民参加による防災マップの  
作成により、防災意識の向上  
として活用 など

中学生と  
連携した  
防災訓練



中学生と連携した  
防災訓練の実施  
中学生と連携した自  
主防災組織活動・避  
難所運営 など

5

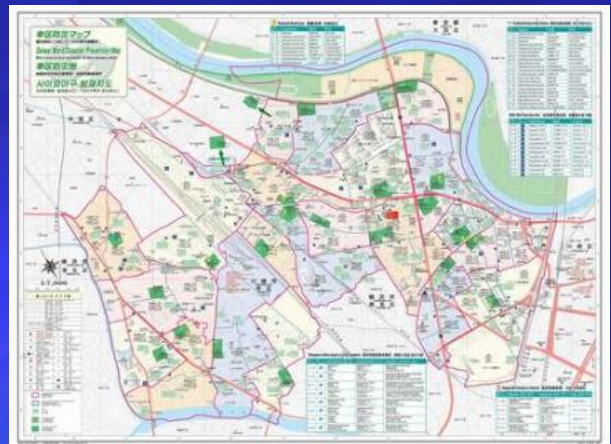
## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### (仮称)マイ防災マップ作成に取り組む理由

中学生が参加しやすい。

中学校との連携により、生徒  
だけでなく、PTAや地域の方  
の参加や協力等を期待できる。

子どもから大人までの参加者  
が一緒に歩き、考えることで  
防災意識の高揚と、顔の見える  
関係が築ける。



6

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 中学生を対象にした防災訓練

幸消防署による災害図上訓練(DIG)の実施  
南河原中学校1年生(平成24年8月29日実施)

御幸中学校1年生(平成24年9月28日実施)

日吉中学校2年生(平成25年3月12日実施)



7

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 災害図上訓練(DIG)とは？

Disaster(災害)・Imagination(想像力)・Game(ゲーム)  
「dig」は「掘る」という動詞。「探究する」、  
「理解する」という意味もあり、「防災意識  
を掘り返す」、「地域を探求する」、「災害  
を理解する」という意味を含め、  
「DIG(ディグ)」と名付けている。



#### 実施方法

地域の地図を広げ、その上にビニール  
シートを被せる。

参加者は地図に地域の特徴を書き込み、  
危険な場所や災害が起きた時の行動な  
どを議論しながら防災意識を高める。



8

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### DIGを活かした取組の検討

DIGに参加した生徒たちを対象に実施  
幸消防署から災害時に起こることを  
聴き、被災地の写真を見るなど、  
危険個所や何が起きるかなどを学  
習している。



DIGは、図上訓練のため、実際に「まち  
歩き」をすることで、地域の状況を確認  
でき、訓練の効果を高めることにつな  
がる。



9

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 幸消防署が実施するDIGの進め方

実際にDIGで使用した資料より(抜粋)



10

## 地域の強さ・弱さを理解する

防災の視点から、以下の各項目に対して、地域の強さ・弱さを理解する。

- ・自然条件(山、河川など)
- ・まちの構造(道路、公園、鉄道など)
- ・物的、人的防災資源(防災倉庫、避難場所など)
- ・危険物施設、危険箇所(注意箇所)
- ・災害時要援護者等

該当個所をカラーマジックで着色、カラーシールでマークしましょう！

11

## 自分の住む地域で地震が発生したら

自分たちの住む地域で、以下のような地震が発生しました。まちには、地域には、どんな被害が発生しますか？また、地域はどのような状況になりますか？

**日時：平成24年8月29日(水)**

**午後5時00分ころ**

**震度：庁舎震度計で震度6強を観測**

**天候：晴れ 風向：北西 風速：5m/s**

12

\* 昭和53年宮城県沖地震では宮城県内で27名が亡くなったが、その内、17名が崩れてきたブロック塀や石塀によるものだった。

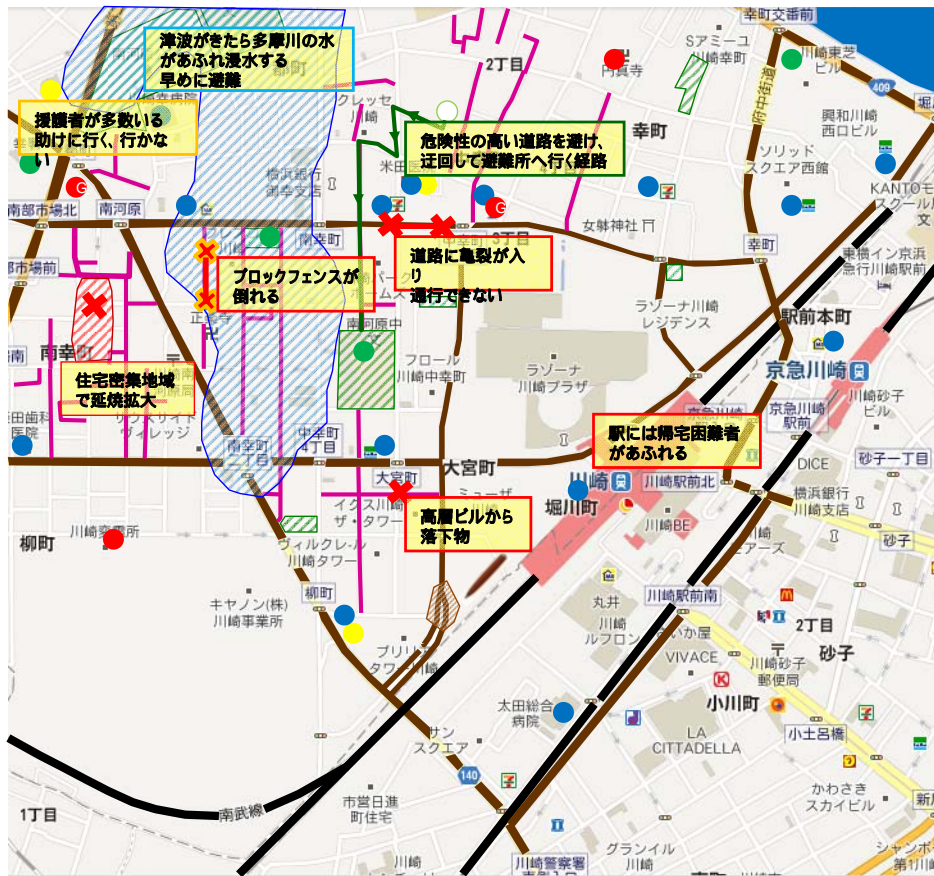


新潟県中越沖地震(柏崎市内)





15



16



## ま と め

- 地域の特徴は？
- 地域に起こりえる被害は？
- 地域の特性を踏まえ、被害を軽減させるためには、地域住民として日頃から何を準備し、**どのような対策**をしておくことが必要と考えられますか？

上記を各班で検討して模造紙にまとめてください。

17

## 大切なこと

日頃から防災を意識して取り組むことが大切です。ですが、災害を100%防ぐことは、とても難しいことです。

**「防災」**      **「減災」**

行政にできることの限界、皆さんのような地域住民一人一人、自分たちのできること、やるべきことを考え、理解してもらおう。

**『自助・共助・公助』の連携**

18

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 日吉中学校で実施したDIGの視察

日時:平成25年3月12日(火)  
対象:日吉中学校2年生96人



19

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### DIGを活用した マイ防災マップの作成



#### DIGと「(仮称)マイ防災マップ」との関係

##### DIG

###### 【目的】

自分のまちの災害上の特徴や強み・弱みを地図上で理解する。  
まちに起こる被害を想定し、日ごろの対策を検討する。  
地図づくりが目的ではない。

###### 【効果】

防災に対する意識の向上  
防災知識の習得

###### 【実施主体】

幸消防署

##### (仮称)マイ防災マップ

###### 【目的】

DIGで学んだ防災知識を踏まえ、実際にまち歩き等により地域の現状を確認・把握し、震災時に必要な行動(避難)を習得する。

###### 【効果】

学校から自宅、自宅から避難所までの避難経路を各家庭で共有  
PTAなど地域が参加することで、“顔の見える関係”がつくれ、地域での支え合いにつながる。

###### 【実施主体】

幸区区民会議  
PTAなど地域(予定)

20

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 実施時期等

開催日：平成25年8月下旬

日吉中学校で行われる

避難訓練(下校訓練)時にあわせて実施

下校訓練を実施しながら、「まち歩き」を実施、その後マップづくりを行う。

参加生徒：日吉中学校3年生(20名程度)

幸消防署によるDIGを経験した3年生を対象

21

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討

### 対象地区：北加瀬1丁目地区

#### 【選定理由】

日吉中学校から1時間程度で歩ける距離  
点検項目が多い(ブロック塀、急傾斜地、  
一時避難場所と  
なる公園・空き地  
など)

「まち歩き」後の  
マップづくり会場  
の確保(日吉  
合同庁舎)



22

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討 タイムスケジュールイメージ

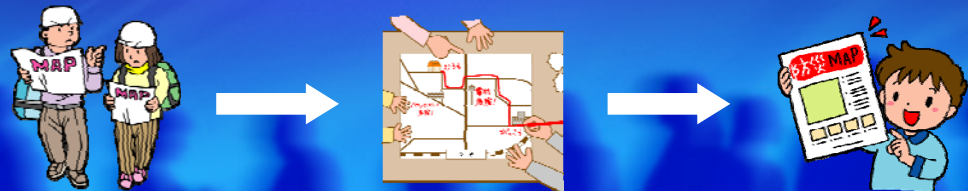
「(仮称)マイ防災マップづくりワークショップ」  
を開催

「まち歩き」(1時間程度)

マップづくり(30分程度)

生徒による発表(20分程度)

区民会議委員によるまとめ(10分程度)



23

## 2 (仮称)マイ防災マップ作成に向けた検討 今後の検討内容

### 実施方法について

中学生が楽しめる工夫、専門家(幸消防署)による  
助言・支援 など

### 作成するマップについて

#### 体裁

サイズ、雨に強い素材、記録方法 など

#### 掲載情報

マップに落とす項目(安全な場所(広いスペース、  
公共施設など)、危険な場所(ブロック塀、細街路など))

### 関係者等との連携について

PTA、町内会・自治会、自主防災組織など

24

## 【参考】自助の意識向上に向けた取組

自助に関する大災害が起きた際、自分の身は自分で守ることが大事

備蓄の促進(3日間分以上の食料の確保)

高層マンション住民が気をつけること

避難場所について(一時避難場所について知られていない)

地域や行政の防災に関する取組が区民に十分知られていない



区で発行する「さいわい広報特別号」により周知  
(平成25年3月11日発行、新聞折込等で配布)

25

## 3 今後のスケジュール

### 防災

(仮称)マイ防災マップづくりに向けた取組

- ・ワークショップ実施内容の検討
- ・ワークショップの開催(8月下旬)
- ・ワークショップの検証



### 自転車マナー

自転車マナーの向上に向けた取組の検討



平成25年末「暮らしの安全部会」の提言の方向性をまとめていく。

専門部会の開催: 来年度6回(4月、5月、8月、9月、10月、12月)

26

# みんなで見守りたい

## 調査審議 経過報告

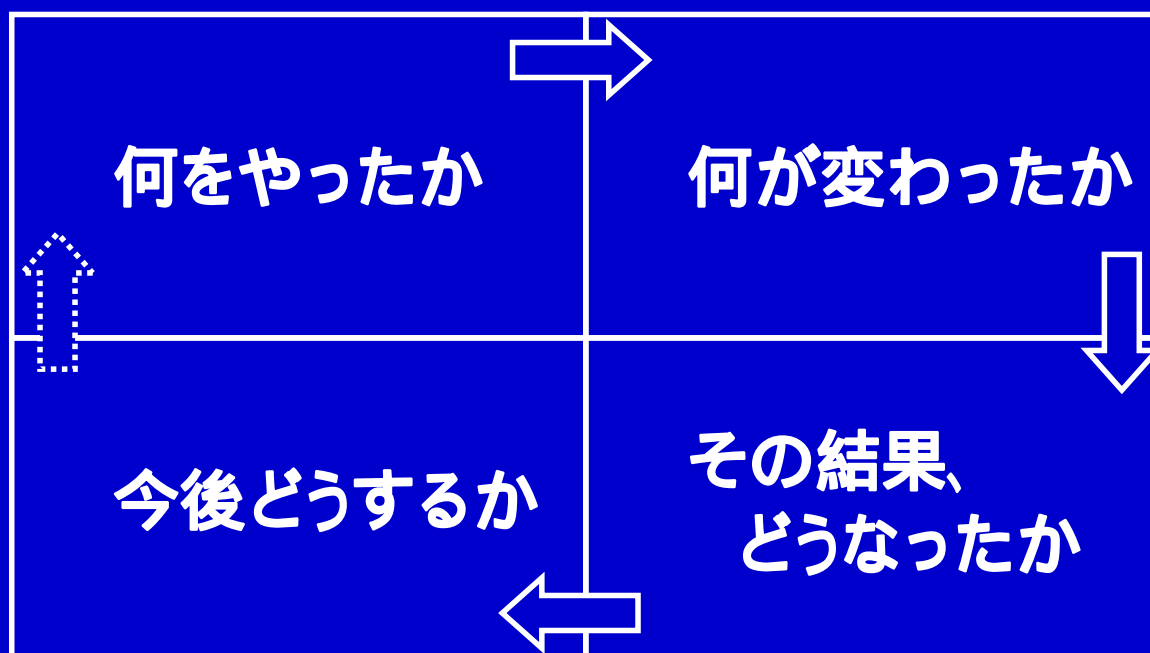
これまでの調査審議の状況と今後のスケジュール

- 1 何をやったか
- 2 何が変わったか
- 3 その結果、どうなったか
- 4 今後どうするか
- 5 部会運営のロードマップ(案)

27

### 「みんなで見守りたい」部会の報告

下記の要領で、第2回全体会から現在までの活動状況を報告します



28

# 1 何をやったか

## (1) 「川崎市区民会議条例」の勉強会

平成24(2012)年11月26日18時から 幸区役所第4会議室で開催

講師： 宮前区役所まちづくり推進部

企画課課長 阿部 浩二 様

構成： 講演(「川崎市区民会議条例制定の経過について」)  
+ 質疑応答

出席者： 約20名 (都合のつく限りの区民会議委員・事務局と区職員有志)

目的： 「区民会議の機能と期待される成果」  
ならびに

「委員の任務と責任」の 実践的理解

(= 自分たちの「立場」をよく知る)

成果： 「概ね目的を達成した」と考えています

29

## 1 - (2) 専門部会を3回開催した

	やったこと	決めたこと
第3回 12月12日	1 幸区の「見守り」取組み状況について事務局から紹介 2 具体的な調査・審議のやり方について討議 その他	1 地区社協、民生委員・児童委員(以下「民生委員」という。)から見守り現場の実態調査を開始する その他
第4回 H25年2月4日	1 調査報告と意見交換・共有 塚越「陽だまり」 南河原地区担当民生委員7名 2 今後の進め方について討議 その他	1 今後の調査スケジュール 老人クラブ友愛チーム 2月20日 地区社協関係2件 3月1日、4日 区社協事務局・理事等・調整中 その他
第5回 2月26日	1 調査報告と意見交換・共有 老人クラブ友愛チーム 2 活動の進め方について討議 その他	1 「『見守り』の定義」仮決め 2 今後の調査スケジュール 地区社協戸手中部会食会 3月1日 同 いきいきサロンやすらぎ 3月4日 区社協事務局 3月19日 (理事等のインクルは調整中) その他

# 【参考】幸区の「見守り」取り組み状況

対象者 (見守られる人)	どのように		実施主体 (見守る人)
	(見守りの方法・事業名等)	(見守る場所)	
区民全般 (異変が生じた状態や何らかの支援を必要としている者等)	ガス交換、新聞配達時等通常業務の一環 (川崎市地域見守りネットワーク事業)	自宅	協力事業者 ・LPガス協会 ・京浜新聞販売組合 ・コープかながわ 地域保健福祉課
住民	訪問等の民生委員児童委員活動	自宅等	民生委員児童委員
高齢者	ふれすこサポーター活動	地域	ふれすこサポーター講座修了生 (老人クラブ) ・平成23年度河原町地区61名 ・平成24年度御幸西地区40名程度予定
高齢者	(老人)いこいの家・陽だまり等の運営や会食会、ミニデイケア活動など	陽だまり、(老人)いこいの家等	区・地区社会福祉協議会
高齢者	わたしのまちのすこやか活動(健康づくりや介護予防、閉じこもり防止の活動)	(老人)いこいの家等区内各所	町会等と連携して地域ぐるみで取り組んでいるボランティア団体等
高齢者とその家族	相談窓口業務	自宅や電話等	地域包括支援センター(保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員)
地域のねたきりやひとり暮らしの高齢者等	訪問による話し相手や日常生活の援助	自宅等	老人クラブ(友愛チーム、区内に69)
高齢者 (65歳以上の心臓疾患等日常生活に注意を要する方など)	緊急通報システム (緊急時の連絡体制を確保する事業)	自宅	提供事業者
高齢者 (65歳以上の徘徊する可能性の高い方(認知症等))	専用端末を利用し、現在地を把握	自宅等	家族や事業者
徘徊する可能性の高い高齢者	保護された際、身元がすぐ確認できるよう事前に登録、各関係機関で連携 (徘徊高齢者SOSネットワーク)	地域	-
高齢者 (在宅のひとり暮らし高齢者)	電話での安否確認等	電話訪問	老人福祉電話相談センター相談員
高齢者 (65歳以上、要介護1～5など要件有)	食事を自宅へ届け、併せて安全確認を行う。(生活支援型食事サービス事業)	自宅	サービス提供事業者
公害認定患者や結核患者	訪問・電話・手紙	自宅等	地域保健福祉課(職員や訪問指導員等)
障害者	相談支援(ケアマネジメント)	自宅や生活支援センター等	保健福祉サービス課 障害者生活支援センター
赤ちゃんが生まれた家庭	新生児訪問 こんにちは赤ちゃん訪問	自宅	保健福祉サービス課(保健師等) 地域の訪問員
災害時要援護者	災害時用援護者避難支援制度	自宅	町内会・自治会、自主防災組織、民生委員児童委員等

## 1 - (3)調査 (= 見守り現場の視察・インタビュー) 実行一覧

月/日	調査先	対象者	サービス	頻度等	担い手	課題
1/21	塚越 「陽だまり」 (区社協傘下)	一般	「場」「茶菓」 「行事」の 提供(無償)	平日 10-16時	地区社協 民生委員 ボランティア	男性利用者の 拡大策
1/29	南河原地区 担当民生委員 7名	一般	コンサル ティング (無償)	随時	民生委員	負荷の軽減 後継者育成
2/20	老人クラブ 友愛チーム (町内会支援)	60歳 以上の 市民	「場」「行事」 「訪問」 (会費・一部有 償)	随時	会員	会員の増加
3/1	戸手中部 会食会 (地区社協)	独居の 高齢者	「場と食事」 の提供 (食事有償)	隔月	登録ボラン ティア14名	現状は解決を急 ぐ重大な課題は なさそう
3/4	いきいきサロ ンやすらぎ (地区社協)	一般	「場」の提供 「食事」の提供 (希望者のみ) (有償)	原則 月4回	登録ボラン ティア113名 民生委員	中長期的には ボランティアの後継 者育成が課題と 見られる



## 2 何が変わったか

「区民会議」への委員の理解が深まった

- \* 区民会議・委員の「任務」と「責任」について、理解が明確になった。

「見守り」について委員の理解が深まった

- \* 「調査」が実際に進みだし、次々と「事実」に触れることができるようになった。

- \* それによって、多くの「気づき」があった。

部会での議論が質的に向上してきた

33

## 3 その結果どうなったか

「見守りモデル」〔「見守り体制」の  
グランドデザイン〕で最も重要な

「『見守り』の定義」が「仮決め」できた。

### 「見守り」の定義(仮)

私たちにとって「見守り」とは

「ほっておくと (このひとの身に)  
まずいことが 起こるかもしれない」

「取り返しのつかないことになる前に、  
見つけて、守ってあげたい」

そうした「思い」と「行動」

34

## 「見守りモデル」の基本要素

- (1) 「見守り」の定義 (2月26日仮決め済)
- (2) 「「みんな」で見守りたい」の「みんな」 (= 「見守る人」 = 「担い手」) の範囲・構成、および 役割分担
- (3) 「見守られる人」 (= サービスの「受け手」) の範囲・構成、および 具体的な見守りニーズ
- (4) 「ニーズ」に対応する「見守り活動」 (サービス・仕掛け・コスト負担など)

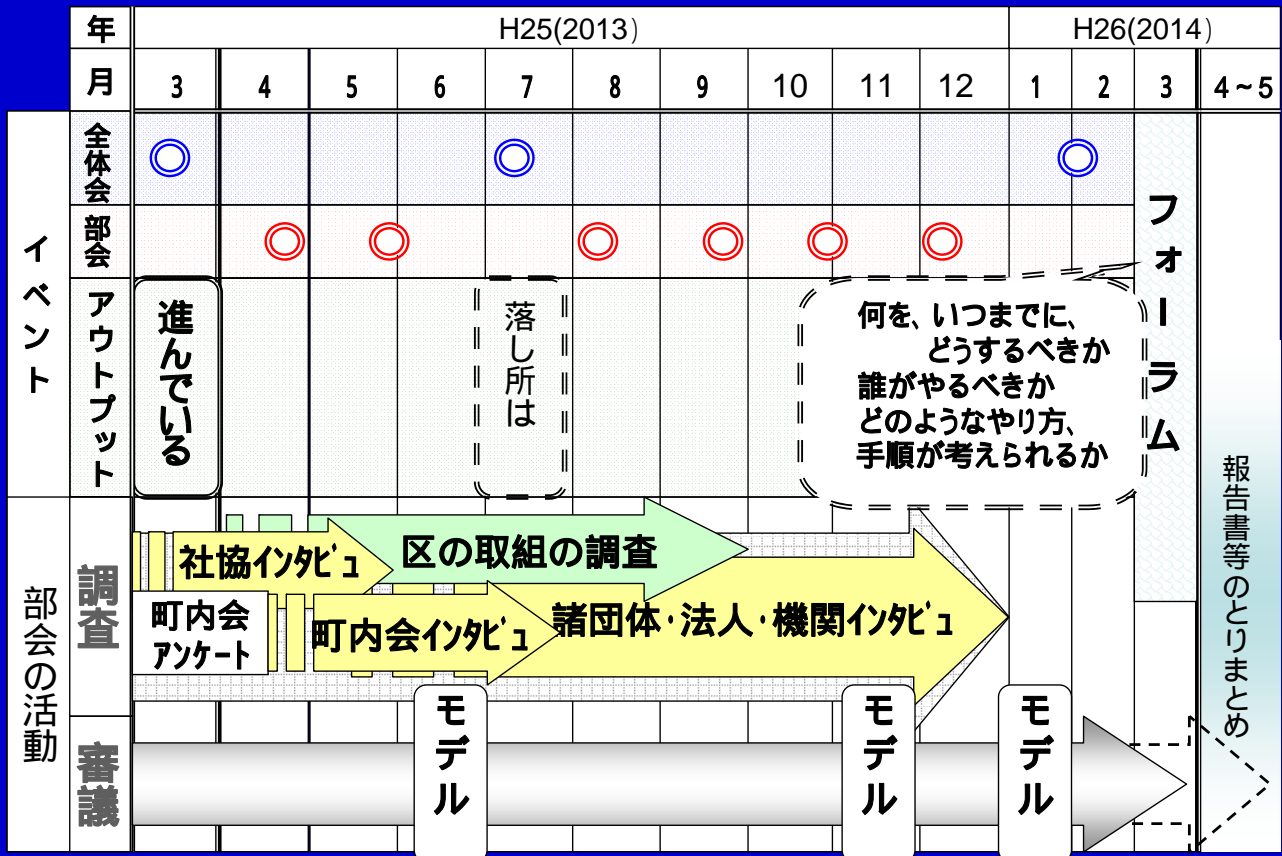
35

## 4 今後どうするか

- (1) 「調査」を速やかに実行し、その結果に基づいて「審議」し、逐次「見守りモデル」の基本要素を「決定」ないし「修正」していく。
- (2) 審議の結果に基づいて「調査」の対象範囲を広げたり、入れ替えたりしていく。

36

## 5 部会運営のロードマップ(案)



37

## 幸区区民会議の今後のスケジュール

第3回幸区区民会議(本日)



第6回専門部会(4月)  
第7回専門部会(5月)

第4回幸区区民会議(7月)



第8回専門部会(8月)  
第9回専門部会(9月)  
第10回専門部会(10、11月)  
第11回専門部会(12月)

第5回幸区区民会議(26年2月)



幸区区民会議フォーラム(26年3月16日(日))

38

# 次回の第4期幸区区民会議について

日時：平成25年7月8日(月)  
18時30分～

会場：幸市民館大会議室